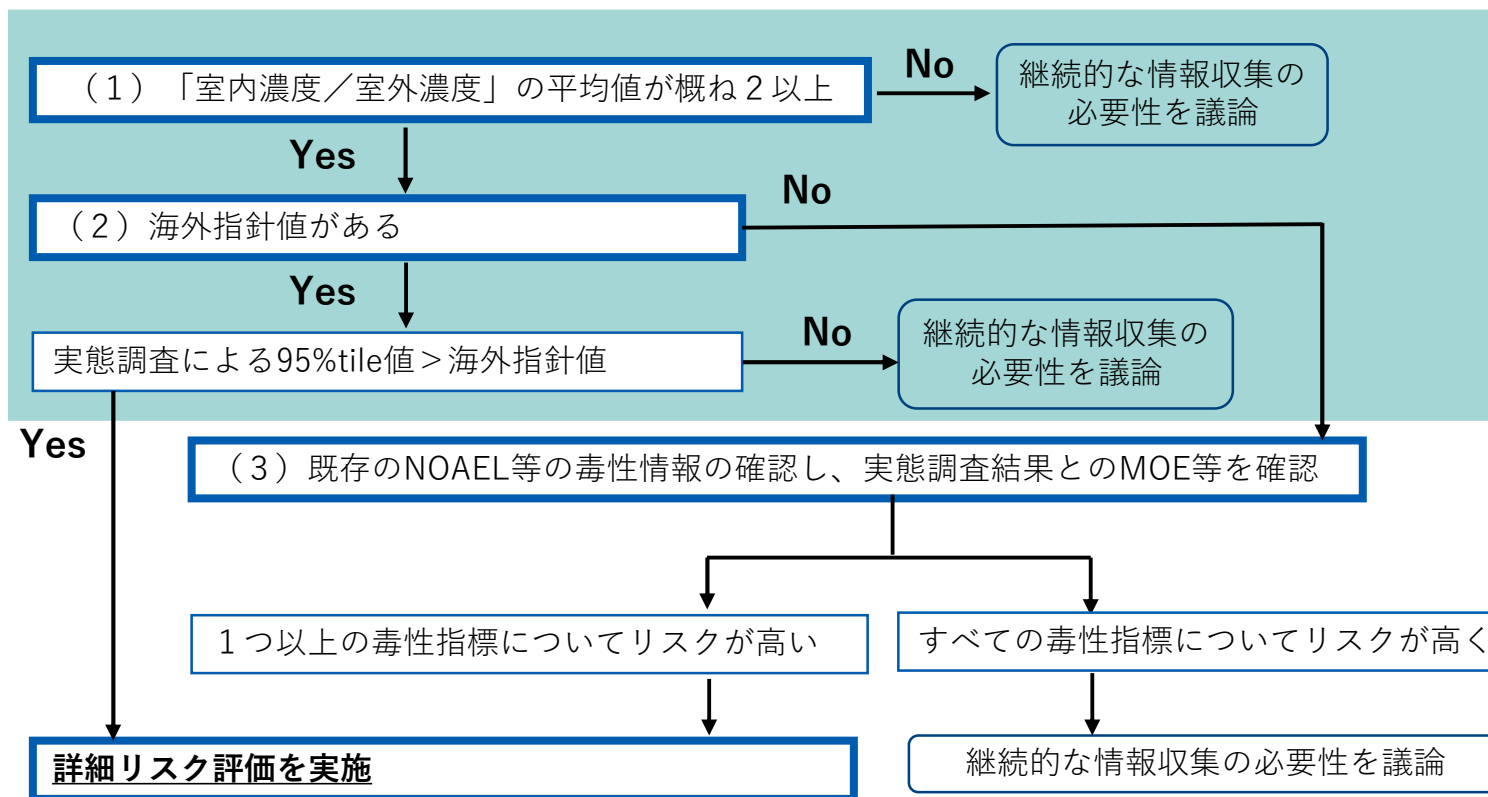


## 初期リスク評価

- ・ 2-エチル-1-ヘキサノール
- ・ 2,2,4-トリメチル-1,3-ペンタンジオールモノイソブチレート
- ・ 2,2,4-トリメチル-1,3-ペンタンジオールジイソブチレート

# 初期リスク評価について



本日は (2) までを実施

## 対象物質

- ・ 2-エチル-1-ヘキサノール(2E1H)
- ・ 2,2,4-トリメチル-1,3-ペンタンジオールモノイソブチレート(TMPD-MIB)
- ・ 2,2,4-トリメチル-1,3-ペンタンジオールジイソブチレート(TMPD-DIB)

## (1) 室内濃度／室外濃度比の確認

物質名	「室内濃度／室外濃度」の平均値※ <sup>1</sup>			
	2020年度 (n=90)	2017年度 (n=28 x 4※ <sup>2</sup> )	2016年度 (n=112)	2015年度 (n=100)
2E1H	23.0 最大 244.9 最小 1.2	12.7 最大 105.8 最小 1.9	35.7 最大 317.4 最小 0.31	25.6 最大 330.7 最小 2.3
TMPD-MIB	9.3 最大 44.0 最小 1.0	8.8 最大 42.5 最小 1.4	12.7 最大 65.3 最小 0.39	10.9 最大 335.5 最小 0.40
TMPD-DIB	10.2 最大 102.7 最小 0.74	10.3 最大 128.2 最小 0.72	24.7 最大 842.3 最小 0.71	5.0 最大 96.7 最小 0.89

※<sup>1</sup> 1軒ごとに「室内濃度／室外濃度」を算出し、調査年度ごとに「室内濃度／室外濃度」の平均値を算出した。

測定値が定量下限値未満の場合は、定量下限値の1/2を代入して算出した。

※<sup>2</sup> 28軒の住宅について、1軒につき年4回測定した。



3物質とも、いずれの調査年度でも「室内濃度／室外濃度」の平均値が2を超えていたので、「(2) 諸外国、国際機関等での指針値作成状況の確認」を行う。

## (2) 諸外国、国際機関等での指針値作成状況の確認

	WHO欧州	ドイツ(RWI)	フランス	カナダ
2E1H	なし	100 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ (暫定)	なし	なし
TMPD-MIB	なし	なし	なし	なし
TMPD-DIB	なし	なし	なし	なし

### 2E1Hのドイツガイドライン値 (RWI) について

- ドイツの値は、ヒトボランティアの**眼刺激性**を評価する試験におけるNOAEC1.5 ppm (8 mg/m<sup>3</sup>) から導出されている。
- NOAEC1.5 ppm を不確実係数60 (固体差10、亜急性から慢性への外挿6) で除すと約100  $\mu\text{g}/\text{m}^3$ となる。
- ドイツでは「屋内ガイド値の導出は、原則として急性データに基づくべきではない」とされていること、亜急性から慢性への外挿に不確実性が残ることから、この値は暫定値とされている。
- 2013年に暫定のRWIとして100  $\mu\text{g}/\text{m}^3$ が出されて以降、現在のところ改訂の動きはない。

➡ ドイツのガイドライン値は、刺激性を根拠に導かれた値であり、慢性的な影響に対しては不確実性が残ることから暫定値とされている。このため、当該ガイドライン値は参考情報として扱い、比較には用いない。

➡ 3物質とも、長期影響に基づく海外指針値はないので、次回「(3) 既存のNOAEL等の毒性情報を確認し、実態調査結果とのMOE等を確認」を行う。